

永樂大典卷之二十三百九十八

六模

蘇

蘇轍

宋史列傳轍字子由年十九與兄軾同登進士科又同策制舉仁宗春秋高轍慮或倦於勤因極言得失而於禁廷之事尤爲

切至曰陛下即位三十餘年矣平居靜慮亦嘗有憂於此乎無憂於此乎臣伏讀制策陛下既有憂懼之言矣然臣恐不敏竊意陛下有其言耳未有其實也往者實元慶曆之間西夏作難陛下晝不安坐夜不安席天下皆謂陛下憂懼小心如周文王然自西方解兵陛下棄置憂懼之心二十年矣古之聖人無事則深憂有事則不懼夫無事而深憂者所以爲有事之不懼也今陛下無事則不憂有事則大懼臣以爲憂樂之節易矣臣竊遠小臣聞之道路不知信否近歲以來宮中貴姬至以千數歌舞飲酒優笑無度坐朝不聞咨謀便殿無所顧問三代之衰漢唐之季女寵之害陛下亦知之矣久而不止百蠹將由之而出內則蠱惑之所汙以傷和伐性外則私謁之所亂以敗政害事陛下無謂好色於內不害外事也今海內

えいらくたいてん
永樂大典（重要美術品）

縦 50.5cm 横 30cm

明嘉靖 41 年 (1562) ~ 隆慶元年 (1567) 頃写 8 冊

中国の国家事業は、その規模遠大である。中国最大の百科事典『永楽大典』は、明朝第三代皇帝の永楽帝（一三六〇〜一四二四）が翰林院学士解縉らに命じて編纂させた一大文化事業である。総数二万二千九百三十七卷、計一万一千九十五冊にも及ぶ大冊を、字の達筆な者三千余人が、四年の歳月をかけ正本一部を完成させたという。あまりの大部ゆえに印刷出版はされなかった。本書は、当時のあらゆる書物を集め、その内容を項目ごとに分類し収めた本格的事典であったが、今日伝わらない資料も少なからずあり、

資料的価値は甚だ大きい。

この類い希な大事典の焼失を恐れ、明末に副本一揃いを作成したが、皮肉にも宮中の書庫にあった正本の方が明末の戦乱で焼失した。副本は次の清朝に伝わったが、これも、英仏軍の北京侵入や、義和團の乱など、清末の動乱で大部分が失われた。中には、砲車を通すために枕木替わりに、ぬかるみに敷き詰めることもあったという。今では全世界で副本八百余巻約四百冊が伝存するのみである。本館所蔵の十六巻八冊を眺めると、表紙は黄綾絹で覆われ、本文は上質の白棉紙に朱墨が映えて



美しく、確かに帝王本にふさわしい豪華な大冊といえる。永楽帝は甥の第二代建文帝から反乱によって帝位を奪い、前帝の勢力を一掃した。一方で、皇位奪取の批判を和らげるため、この事業を始めたという。しかし本書を繙くと、皇帝の思惑をよそに、ひたすら本書作成に汗した人々の息吹が伝わってくるようである。

（天理図書館 吉成伸仁）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
3月1日から31日まで閲覧業務を休みます
曝書および開架書架設置工事のため3月中閲覧・貸出できません
ご了承ください